

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員と地域おこし協力隊員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 護

減農薬栽培をめざしましょう!!

野菜栽培で高品質、高収量を得るためには病害虫の防除が不可欠です。病害虫の防除には農薬散布が効果的ですが、健康面から農薬使用はできるだけ少なくしたいものです。

土づくりを念入りに

立派な野菜を作るためには、水はけや水持ちのよい、肥えた土が不可欠です。堆肥などの有機物を継続的に施用(完熟堆肥※1)1アール当たり200キロ)し、石灰資材で土壌のpHを調節しましょう。

畑は清潔に

収穫後、前作の古い葉や残株を集めて、焼却などをして害虫や病原菌の発生源を除去しましょう。

連作はしない

同じ種類の野菜(特にアブラナ科、ナス科)は連作を避け、土壌伝染性病害(根こぶ病、萎黄病、萎ちよう病など)を防ぎましょう。

厚まき(※2)、密植を避ける

苗が込み過ぎると、軟弱で病気にかかりやすくなり、害虫のすみかになります。間引きをして、株間を十分とり、日当たり、風通しをよくしましょう。

(※1)有機物がよく分解・発酵した堆肥
(※2)一定面積当たりの量を多くして種をまくこと

窒素肥料のやり過ぎは禁物

窒素のやり過ぎは、一見立派に見えても実は軟弱に育ち、病害虫に対する抵抗力が弱くなっています。

抵抗性の品種を選ぶ

品種改良が進み、病害虫に強い品種が出回るようになりました。病害虫に強い台木(接ぎ木の台にする木)を利用した接ぎ木苗を利用することで、農薬に頼る必要が低下します。

排水を良くし、乾燥時には水やりを

土の湿り過ぎは、根腐病などの原因になります。ほ場の周囲に溝を作って、速やかに排水できるようにしましょう。

病害虫の被害は早期に処理

病害虫は早期発見しましょう。もし病気が発生したら、その株は早めに抜くか、株元をハサミで切ってほ場の外に速やかに持ち出し、焼却しましょう。

害虫は広がらないうちに駆除

害虫の発生で大切なのは最初の1匹を見逃さないことです。繁殖する前に駆除しましょう。

農薬の使用は最小限に

どうしても農薬を必要とするときは、防除基準をしっかりと守って、適期に適量散布をしましょう。

問い合わせ

農業振興課農業振興係
0824・73・1132

地域で「生き生き」 獣害対策その一歩先へ!

地域おこし協力隊 草谷 夏枝

柵では防げない被害も止める!

先日、獣害対策のモデル畑がある本村野谷地区の定例会にお邪魔したときのことです。「ことしは夜に道路でイノシシに遭遇することが少なくなった」とのこと。うれしい報告でした。

実はこの地域では、獣害対策のモデル畑をつくってから、定例会や県主催の鳥獣講習会で勉強するだけでなく、仲間で自主的に行ってきたことがあります。

▼空き家や自宅の果樹や茂みの剪定

▼連携した花火による追い払い

▼柵の大規模点検

追い払いの連携は、花火の音が聞こえたら、時間差でロケット花火を発射するなど、工夫しているそうです。以前は道路を堂々と列をなして歩いていったイノシシも、偶然出会った車を避けるだけでは済まされず、地域から追い払われるのですから、イノシシにとっては「出勤しにくいところ」になってしまいました。



でも一番は集落みんなで余剰野菜の「ポイ捨て」をしなくなったことかな。勉強会で、集落みんなが具体的にすることを確認しあい、実行することで、少しずつ結果が現れているようです。



花火の発射台も手作り。火工夫が下に散ららないように工夫されています。

鳥獣対策を考えるロビーパネル展

とき

10月15日(月)〜19日(金) 9時〜17時

ところ 市役所市民ホール

内容 獣害対策は稲刈りが済んでも終わりでありません。むしろ冬場に里で食べ物を食べさせないように気を付けることで、春からの対策の効果がぐっとアップします。

パネル展では、シカやサル、その他鳥獣による獣害対策の説明や、市内での継続的な取り組みの紹介をします。また、常駐の係員がいますので、お気軽にお立ち寄りください。

問い合わせ

商工林業課林業振興係
0824・73・1124